

東北復興へ！「物産購入」と「旅行・観光」での支援の気持ちは？

東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方の復興支援を、生活者一人一人はどのように考えているのでしょうか？
 「リビングくらしHOW研究所」では「東日本大震災の被災地支援についてのアンケート」を実施。その中から「東北の物産購入」「東北への旅行・観光」についての回答を速報でお届けします。

<調査概要> 期間：2011年3月31日～4月3日
 回答者：ウェブサイト「えるこみ」ユーザー756人（女性89.4%、既婚77.8%）
 そのうち首都圏在住者345人、静岡以西在住者386人、

グラフは小数点以下第2位を四捨五入のため
 合計100%にならないものもあります

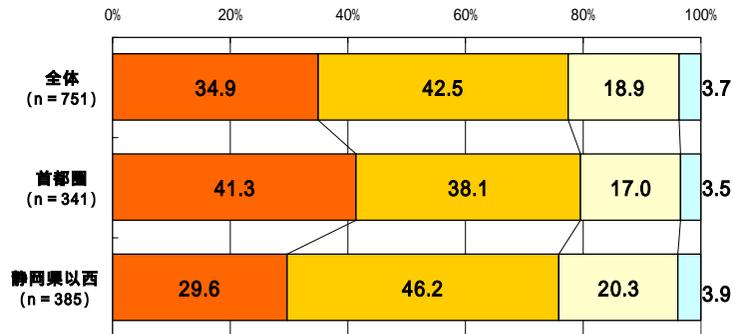
本調査は、通常の回答者謝礼はなし、相当額を被災地の義援金とするかたちで実施しました

被災地の物産購入には8割が積極的 旅行・観光はもう少し様子を見てから

グラフ
 今後の復興期に被災地域の物産を積極的に購入したいと思いますか？

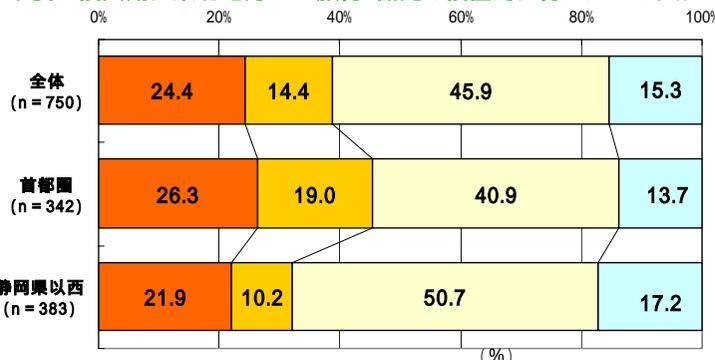
被災地域の支援を意識しての物産の購入については、全体の8割近くが肯定的に考えている。フリーアンサー（裏面参照）を見ると、風評被害は自分たち消費者が意識を高く持って防ぐべき、それによって東北経済を支えたいという考えの人も非常に多い。

ただし、原発事故の放射線漏れの影響で、小さな子供を持つ人は消極的にならざるを得ない、という状況も大きい。特に食品の安全性については、公表される情報を信じていいのか、信じられないのか、多くの消費者が少なからず迷っている。今後はさらなる混乱を招くことなく、「売られているものは100%安全」という信頼を高めていくことが、被災地物産の販売の成否を左右することは間違いない。



- 販売しているものは安全だと信頼して、積極的に購入したい
- 安全性が公的に確認されたものについては、積極的に購入したい
- 今は積極的に購入するのは難しいが、状況次第で購入したい
- 積極的に購入することは、考えられない

グラフ
 今後の復興期に東北地方への旅行・観光を積極的にに行きたいですか？



- 目的地に問題なければ、積極的にいきたい
- 東北全体の安全性が高まれば、積極的にいきたい
- 今は積極的に計画するのは難しいが、状況次第で行きたい
- 積極的にいくことは、考えられない

「東北地方への旅行・観光」については、「今は難しいが状況次第で考えたい」という人が半数を占めた。現時点では、テレビや新聞などのメディアでの様子を見たり、被災者の気持ちを考えても、具体的には考えられないという人が多い（裏面参照）。

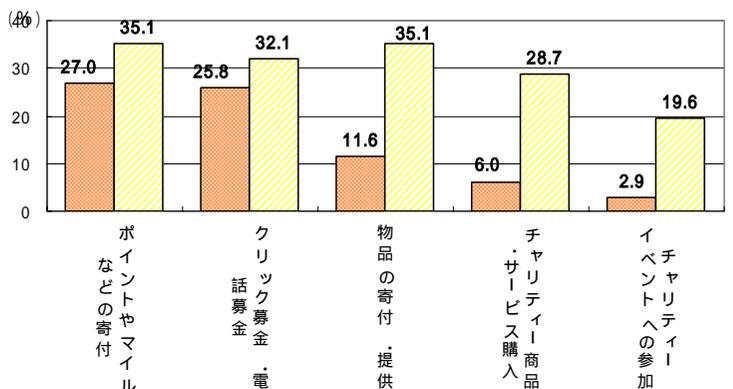
ただし「現地を支援するためには、そこに行ってお金を使うのが有効だ」という考えも目立ち、ある程度復興が進んで、現地の方が歓迎してくれる状況なら検討したい、という人も多い。その志を活かすタイミングと情報の出し方に配慮していけば、比較的早い時期から東北観光を盛り上げていくことも可能だろう。

今までは「寄付・募金」的の活動がメイン 今後は「買い物」「イベント参加」など、 日常生活の中からの支援もしていきたい！

グラフ 今までのチャリティー行動と今後したい行動（義援金以外）

右のグラフは、東日本大震災に対して「（現金での募金以外の）今までにしたチャリティー活動」と、「今後したい活動」を聞いたものだ。

「今まで」はポイントやマイルの寄付、クリック募金などの「募金」に類するものの割合が高い。一方で「今後したいこと」は、「物品の寄付」と「チャリティー商品、サービスの購入」「イベント参加」など、今までしていないことも伸びてくる。今後は、生活の範囲で無理なく継続できる支援の提案が、支持されてくるだろう。



複数回答
 (n=756)

■ 今までにした □ これからしたい

「リビング仙台」「リビング福島」編集長のメッセージと迷いながらも経済支援を考えるミセスたちの声

復興へ向けて、「これまでどおりに東北産のモノを選んでほしい」「復興したら、ぜひ東北を訪れてほしい」という現地のリビング新聞編集長からのメッセージが届きました。あわせて復興支援としての「東北物産の購入」「旅行・観光」に対して寄せられた声を紹介します。けっして簡単ではない問いかけに、多くの人が悩みつつも真摯に答えてくれました。

仙台&福島 リビング新聞編集長からのメッセージ

リビング仙台 藤崎由紀子編集長

**通常の経済活動が復興への第一歩に
10のうち1つは東北産を選んで**

仙台は元気です。同じ痛みを持つ中、眠っていた助け合いのDNAが刺激され、人の優しさが優しさを生み、今、温かなつながりも育まれています。

みなさんに望むことは、通常通りの経済活動です。できれば10のうち1つは、東北のモノを選んでください。仙台、東北の経済を活性化すること、それが私たちの復興への第一歩になります。そして、楽しみやイベントを自粛せず、どんどん楽しんでください。自粛すれば、それだけ日本が小さくなります。何より楽しみは笑顔を呼びます。笑顔はパワーです。笑顔は連鎖します。

リビング福島 村上英俊編集長

**「福島県」は今までと変わりません
復興後はぜひ観光に来てください**

東北地方太平洋沖大震災以降、多くの皆さんからお見舞いや励ましを頂きまして、誠にありがとうございます。福島県は太平洋岸は甚大な被害を受けましたが、福島市や郡山市などはライフラインもほぼ復旧し、生活は元に戻りつつあります。

福島県は今、全力で復興に取り組んでいますので、皆さんには「福島県」を特別扱いせず、これまで同様に受け入れ、支援していただきたいと思います。福島県には観光名所やおいしいものがたくさんあります。無事に復興した暁には、ぜひ福島県を訪れて、目いっぱい満喫してください。

復興支援のための「東北産品の購入」「東北地方への旅行」をどう考えていますか？
多くの方が、迷いながらも、真摯に答えてくれました。その抜粋を紹介します。

【安全なものなら、積極的に購入したい】

茨城産というだけで敬遠しないで「水菜」のようにハウス栽培などの安全なものは積極的に購入したいです。(埼玉県・67歳)

一般のスーパーでも積極的に取り扱ってほしいと思う。口蹄疫禍の宮崎をフェアで応援した時のように。(東京都・41歳)

私は宮崎の出身で、風評被害の悔しさ、怖さを痛いほど分かっていました。せめて今回の震災や原発で被害を受けてる方達にはそのような思いを味わってほしくないと思います。(大阪府・35歳)

そう何度も募金するのは難しいけど、生産品の購入という形の支援なら参加しやすい。(東京都・47歳)

風評被害の恐ろしさを実感しています。安全だとわかっているものならば、微力だけれど被災地の支援の手段のひとつとして積極的に購入したいと思っています。ただ、政府などの対応がかなり後手にまわっていて、商品もあまり出回っていないし、情報がないのが残念。(千葉県・36歳)

【「支援したい」と思いつつ、子供のことを考えると迷う・・・】

大人だけの家庭なら本当は積極的に購入したいのだが、原発の問題が収束するまでは子供がまだ小さいので躊躇してしまう。(東京都・40歳)

自宅の冷蔵庫などを見て、「三陸産わかめ」が常備してあったり、距離は遠くても身近な商品がたくさんあるので、ぜひ復興に協力したいので購入したいと思います。ただ、子供がまだ9歳なので安全性の確認がされるまでは購入は控えると思います。(兵庫県・41歳)

【だからこそ欲しいのは安全性についての信じられる情報】

安全性が公的に確認されたもの・・・その[公的]が信用できる状態ではないので困っています。何を信用していいのかわからない。(広島県・41歳)

自己中ですけど、子供のことを考えると、政府のことを信じて購入していいのかわからない。何が正しい情報で、あいまいな情報なのかは実際のところわからない。(静岡県・32歳)

【大好きな地域、行きたかった地域を応援する旅をしたい】

安全であれば、直接お金を現地の人のたちとところで落としたい気持ちがある。経済復興に役立ちたい。(神奈川県・53歳)

訪問することで復興を応援したい。もちろん好きな場所だから行きたいというのもある。(東京都・41歳)

観光地も、大打撃を受けていることでしょう。気分的に自粛ムードが取れれば、ぜひ行きたいと思います。(神奈川県・44歳)

以前宮城県に旅行に行った際に、とても親切に頂きました。行くことで復興になるなら、ぜひ行きたいです。(兵庫県・40歳)

夫婦で東北に行ったことがないので、この夏予定をしていた。受け入れ状態がOKであれば迷わずに行きたい。(兵庫県・55歳)

被災が少なかった東北地方に住んでいるので、東北地方を応援したい。(福島県・38歳)

【被災者の気持ちを考えると、今はまだ・・・】

今は気分的にひやかしのよう思えるので、落ち着いたら是非行きたいです。(大阪府・39歳)

興味半分でいくのは失礼に当たると思う。ある程度落ち着いたいて観光が復興に役立つならいきたいと思う。(岡山県・50歳)

今は被災者の心を重んじたいですね。少し時間を置いて目的地に問題がなければ行きたい。地域活性化も大事なことです。(神奈川県・47歳)

【迷いもあるけれど、考えていきたい】

復興期に観光に行くのが良いことなのか...今は良く分かりません。状況をみながら判断して、観光に行くことが被災地の復興へつながるのなら是非行きたいと思っています。(兵庫県・32歳)

今は小さい子供がいるのであえて東北地方へ行くのは難しいと思いますが、復興のお手伝いに少しでもなるなら、安全と分り次第候補には上げたいと思います。(愛知県・33歳)